



## Contents

- ・【巻頭エッセー】  
一筋縄ではいかぬ図書館へのノスタルジー  
… 横井雅子 ●表紙
- ・ Welcome to our Library ●2～3
- ・【卒論報告】  
ミュージックビデオにおける「オマージュ」について  
—日本のミュージックビデオ文化での事例調査と考察—  
… 小林美耶子 ●4～5
- ・風景の中で⑫… 図書館長 井上郷子  
2021年度ばるらんど総目次 ●6
- ・デジタル楽譜を使ってみよう! ●7
- ・ Information ●8

# Parlando

## ばるらんど

「語りかけるように歌う」という意味の楽想記号です

No.314

### 【巻頭エッセー】

## 一筋縄ではいかぬ図書館へのノスタルジー

横井 雅子

この2年間の生活でもっとも変わったことと言えば、人と  
の接触を減らすためにオンラインで済ませられることはそう  
することが多くなったことだろう。そうせざるを得なくなって  
使ってみれば、結構な量の情報がWeb上で集まってくる。  
ふーん、今はここまで出来ちゃうのね…。しかし、しばらく便  
利に使っているうちに「何か」が足りない、これじゃないのよ  
ね、ともやもやしてきた。オンラインで入手できない情報がか  
なり溜まってきて、早く外部の図書館を普通に使いたいと思  
うようになった頃、その足りない何かとは、時たま感じる図書  
館での一種形容しがたい緊張感であることに思い当たった。

今の国立音大の和やかな雰囲気のある図書館ではそんな経験  
はまずできないが、別の大学が母校だった私はまず大学時代  
にその「形容しがたい緊張感」を味わうことがあった。教壇  
に立つようになり、研究も並行して進めていく中で全くアクセ  
スしたことの無い図書館にしかない資料を探しに行ったり、  
国外の図書館を利用したりした時にもそんな緊張を感じるこ  
とがあった。

図書館にはそれぞれに使い方のルールがあり、あるいはシ  
ステムが異なっていて、初めての利用者には静まりかえった中  
でそのルールなりシステムなりをいち早く使いこなせるよう  
になるのは結構なプレッシャーである。いや、誰もがそうでは  
ないのかもしれないが、誰にも引けを取らないアナログ星人  
の私には、使い慣れない図書館はハードルが高い。端末で検

索し、予約をかけ、請求というような手続きは日本ではどうに  
かなるが、国外の図書館でも同じようにいくとは限らない。  
皆さんはカタカナのコンピュータ用語をそのまま英語に置き  
換えればどこでも通じると思われるかもしれないが、国に  
よっては本国語にがっちり翻訳してあり（たとえば日本で  
IT用語が全て漢字化されているといった感じ）、その国で日  
常生活には困らない程度に話せても、端末を前にすると幼稚  
園児なみの語学力ということも珍しくない。レファレンスや手  
すきのスタッフにヘルプをお願いすることもしばしばだが、こ  
こで別の緊張感に襲われることもある。たまにある「4倍速  
早口」とか「木で鼻を括った」ような対応のスタッフに当た  
ってしまうと、半泣きになるわ、イヤな汗は出るわ、喉はカラ  
カラになるわ、と緊張感マックスだ。単なる検索とか資料の請  
求という程度の目的を果たした頃にはもうぐったりということ  
もざらである。

しかし、そんな苦勞の末に入手した資料はそれゆえに愛お  
しきすら感じる存在となる。一刻も早くページをめくって読み  
進めたい気持ちをぐっと堪え、隅々まで見落としがないよう  
に、それはそれは丁寧に扱うことになるのだ。そうしてそ  
の資料は徐々に私の記憶の中に定着していくのである。

気後れとドキドキ感を相棒に図書館で資料探しをすること  
は今やノスタルジーとなってしまったが、あの緊張感をまた早  
く味わいたいと切に願う今日この頃である。

●よこい まさこ 本学教授(音楽学)